

問1 江戸時代に志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印や、3世紀の歴史書に記された卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かったという記述は、当時の日本と中国のどのような関係を示していますか。（2021年 茨城県公立入試 類似）

1. 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係
2. 日本が中国の王朝に対して軍事的な圧力をかけ、金印や称号を無理やり奪い取った関係
3. 中国の皇帝が日本の優れた統治体制に学び、日本の王に中国の政治顧問を依頼した関係
4. 日本と中国が対等な立場での自由貿易を約束し、称号の交換を経済的な儀礼とした関係

問2 1世紀半ば、弥生時代の日本（倭）にあった奴国の王が、中国の後漢の皇帝から金印を授けられた頃の世界の動向として正しいものはどれですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）

1. ローマ帝国が地中海周辺を統一し、パレスチナでイエスがキリスト教を創始した。
2. 南アジアのインダス川流域でインダス文明が栄え、大きな都市が建設された。
3. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始し、急速に勢力を拡大した。
4. ヨーロッパでルターが宗教改革を始め、カトリック教会に対してプロテスタントが成立した

問3 弥生時代、稲作の普及によって余剰生産物が生まれると、富を蓄えた有力者が現れ、各地に小規模な政治集団である「国」が形成されました。当時の倭（日本）の有力な王は、中国の王朝から自らの地位を正式に認められることで、周辺諸国に対する権威を高めようとしてしました。西暦57年に、倭の「奴国」の王が中国の後漢の皇帝から授かった、その地位を証明するための品物として正しいものを選びなさい。（2018年 神奈川県公立入試 類似）

1. 「漢委奴国王」と刻まれた金印
2. 三角縁神獣鏡
3. 仏像や経典
4. 稲荷山古墳から出土した鉄剣

問4 弥生時代の稲作の普及に伴って変化した人々の生活や道具について述べたものとして、正しいものはどれか。（2023年 佐賀公立入試 類似）

1. 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。
2. 人々は獲物を求めて移動生活を続け、土器は表面に縄目の文様がある厚手で大まかな作りのものが主流となった。
3. 稲作を管理するために、強力な権力を持つ支配者が各地に巨大な前方後円墳を築かせた。
4. 金属器はまだ伝わっていなかったため、すべて木製の農具と黒曜石の打製石器のみで耕作が行われた。

問5 縄文時代末期に大陸から北九州地方へ稲作が伝来したことにより、その後の社会の仕組みはどのように変化しましたか。最も適切な説明を選びなさい。（2016年 奈良公立入試 類似）

1. 食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐり争いが生じるようになった。
2. 全国で狩猟や採集が完全に行われなくなり、全ての集落が移動をしない定住生活を同時に開始した。
3. 大陸との交易が独占されたため、各地の集落が独立したまま争いのない平和な時代が続いた。
4. 米を貨幣として使用する制度がすぐに確立し、中央集権的な国家が全国に一気に誕生した。

問6 大陸からの技術伝来によって起きた、弥生時代の道具の変化に関する説明として正しいものはどれですか。（2018年 奈良公立入試 類似）

1. 石器から金属器への移行が進み、実用的な道具には主に鉄が用いられるようになった。
2. 青銅が農具の主材料となり、それまで使われていた木製農具は全く使われなくなった。
3. 朝鮮半島から伝わった技術により、打製石器を加工して鉄のように鋭くする技法が確立した。
4. 中国から伝わった鉄を使い、日本独自の文化である縄文土器の文様がより複雑になった。

問7 弥生時代の大規模な集落に見られる「環濠集落」について、集落の周囲に深い壕や柵を設けた当時の社会的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 群馬公立入試 類似）

1. 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐり争いが始まり、防衛を固める必要があったため
2. 仏教が伝来したことで、寺院を中心とした聖なる空間を俗世間から区別するため
3. 大陸から伝わった最新の建築技術を誇示し、周辺の豪族に対して政治的優位を示すため
4. 大規模な洪水や高潮などの自然災害から、住居や高床倉庫が流されるのを防ぐため

問8 弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 滋賀公立入試 類似）

1. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。
2. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることで死者の霊を慰める役割を果たした。
3. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。
4. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係	1世紀には奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かり、3世紀には邪馬台国の卑弥呼が魏から「親魏倭王」の称号と金印などを授かりました。これらは、中国の皇帝から「位」を認めてもらうことで、国内の他の勢力に対して自らの権威を誇示しようとした外交の形を証明しています。
問2	<b>答え 1</b> ローマ帝国が地中海周辺を統一し、パレスチナでイエスがキリスト教を創始した。	紀元57年に奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かった1世紀頃、西方ではローマ帝国が地中海を囲む広大な地域を支配していました。また、同じ1世紀にはパレスチナでイエスによってキリスト教が成立しており、日本の弥生時代の動きと世界の古代帝国の形成や宗教の成立は同時期の出来事です。インダス文明は紀元前、イスラム教は7世紀、宗教改革は16世紀の出来事であるため、時期が異なります。
問3	<b>答え 1</b> 「漢委奴国王」と刻まれた金印	稲作が広まった弥生時代には、食料の蓄えや土地を巡って「争い」が起きるようになり、集団を統合するリーダー、つまり「王」が現れました。当時の中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、倭の奴国の王が後漢の光武帝に使いを送り、金印を授かったことが記されています。この金印は江戸時代に現在の福岡県（志賀島）で発見されており、当時の日本が中国の王朝と外交関係を持っていたことを裏付ける重要な資料です。
問4	<b>答え 1</b> 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。	稲作の定着により、食料を貯蔵するための高床倉庫が造られるようになりました。また、石包丁による「穂首刈り」が行われ、木製農具や、大陸から伝わった金属器（鉄器・青銅器）も併用されるようになりました。縄目の文様の土器は縄文時代、前方後円墳は古墳時代の特徴です。
問5	<b>答え 1</b> 食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐる争いが生じるようになった。	稲作によって収穫された米は、それまでの狩猟・採集による食料とは異なり、長期保存が可能でした。これが余剰生産物としての「富」を生み、それを管理するリーダーの出現や、有利な土地を確保するための集落間の紛争、さらには身分の格差へとつながり、社会の構造を大きく変える要因となりました。
問6	<b>答え 1</b> 石器から金属器への移行が進み、実用的な道具には主に鉄が用いられるようになった。	大陸からの技術伝来により、それまでの石器を中心とした生活から、金属器（鉄器・青銅器）を利用する生活へと変化しました。これを技術革新と呼びます。鉄は非常に実用性が高く、農具や工具、武器として社会を支える基盤となりました。この変化は、食料生産の増加や集落間の争い、さらには社会の階層化にもつながる重要な転換点となりました。
問7	<b>答え 1</b> 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため	縄文時代にはあまり見られなかった集落同士の争いは、弥生時代に入り稲作による余剰生産物（富）が生まれたことで発生しました。吉野ヶ里遺跡などの調査からは、集落全体を壕や柵で囲むだけでなく、物見櫓を立てて外敵を監視していた様子も判明しており、当時の社会が非常に緊張感のある状態にあったことを示しています。
問8	<b>答え 1</b> 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。